

魔法のプロジェクト2022 最終成果報告書

報告者氏名:中木 真奈 (杉原 大輔) 所属:山口県立山口総合支援学校 記録日:2023年2月20日
キーワード:気持ち コミュニケーション 自己理解 スケジュール チャット

【対象児の情報】

- ・学年 小学部5年
- ・障害名 知的障がいを伴う自閉症
- ・障害と困難の内容

気持ちが不安定になることがある。周囲の環境によるものが多いが、原因はわからないこともある。不安定になると、泣いたりトイレに頻繁に行ったりする。一度不安定になると、その日は調子が戻らないことが多い。

【活動目的】

- ・当初のねらい
自分の思いを整理して、穏やかに過ごすことができる。
- ・実施期間
2022年5月～2023年2月
- ・実施者
中木 真奈
- ・実施者と対象児の関係
担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

(日常生活、休み時間の様子)

- ・基本的な生活習慣は自立している。
 - ・会話のやりとりを楽しむことができるが、会話の内容やその場の状況によっては、全く返事をしないことがある。
 - ・アニメが大好き。休み時間や移動中に好きなストーリーを一人で声に出していることが多い。
 - ・月経期間中は、気持ちが不安定になることが多い。休み時間の度にトイレに行きたがる。
 - ・いつ iPad の充電をしてもらえるか等、気になることがあると、学習中にも休み時間にも何度も教員に確認する。
- (学習面)
- ・基本的には、積極的に参加する。順番がある活動では、必ず1番にやりたがる。
 - ・小学1年生程度の国語の読解問題をおおむね正しく解くことができる。指示語や文と文の関係を問う問題は理解が不十分。
 - ・児童5名の学習集団で過ごすことが多いが、言葉でのやりとりがスムーズにできるのは、本児のみであり、児童の希望が通りやすい環境にある。
 - ・普段とは異なる環境での学習や自分の予測とは違うことがあると、気持ちが不安定になることがある。原因はわからないこともある。不安定になると、泣いたりトイレに頻繁に行ったりする。一度不安定になると、その日は調子が戻らないことが多い。

○活動の具体的内容

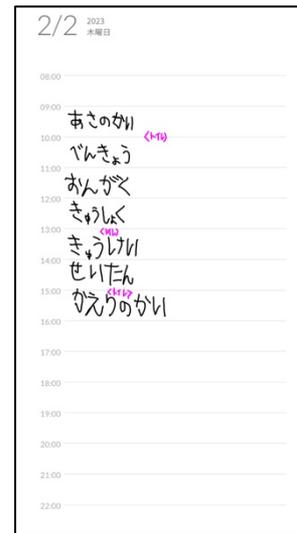
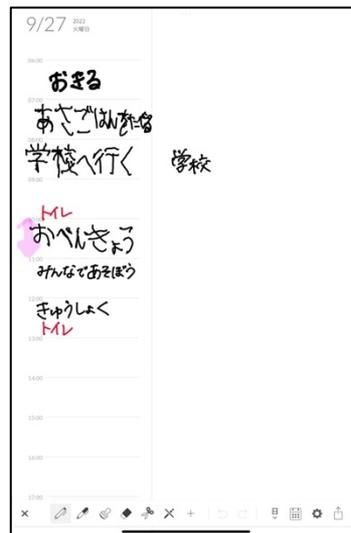
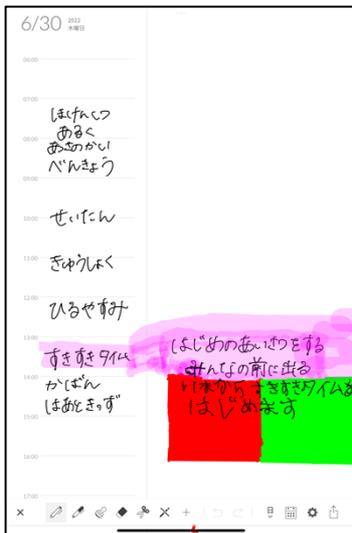
1. スケジュール理解

使用アプリ:Planner for iPad

- ・1日の流れを確認する。1日の中で、楽しみ・不安など感情が揺れる箇所に色をつけるなどして、自分の気がかりな点を見つける。
- ・月経期間中には、トイレに行くタイミングを登校後に決めて記入しておく。

<児童の様子>

- ・時刻に沿ったスケジュールを立てることを今まで経験しておらず、指導開始時は、1人でスケジュールを書き込むことは難しかった。6月は、児童と話し合いながら教員が全てメモを取った。書き込まれたスケジュールを見ると、「〇〇って何するの?」「〇〇楽しみだね」という会話をしながら1日の流れを確認することができた。(画像①)
- ・少しずつ自分で書くことに慣れてきて、「トイレは給食の後」など、順序を考えながら自分でスケジュールを組み立てることができるようになった。2月現在、1人でスケジュールを完成させることができています。(画像②、③)トイレに行く時間を決めておくことで、トイレに頻繁に行きたがったり、授業中にトイレが気になったりすることもなくなった。



(画像①不安な場面に色付けしたスケジュール) (画像②、③:トイレのタイミングについて示したスケジュール)

2. 自分の気持ちの理解

①自分の気持ちを知る

使用アプリ:えにつき

- ・気持ちカードの中から、自分の気持ちに合うものを選び、自分の気持ちの変化に気づく。
- ・自分の気持ちを画像付きの日記に書く。



(使用した絵カード: PriPri 発達支援 絵カード4 気持ち)

<児童の様子>

- ・楽しんでいた体育のボール遊びでは、最後に負けて泣いて終わったことで、日記に書くときに、「つまらない」のカードを選んだ。活動の中でマイナスの感情があると、楽しかったことやおもしろかったことを忘れてしまうようだった。同じ授業中の複数の写真を見ることで、自分の明るい表情に気づき、活動を思い切り楽しんだことを思い出すことができた。(次ページ画像④)プラスの感情が出た場面とマイナスの感情がでた場面どちらもあることを知ることで、次の活動にも意欲をもつことができた。



(画像④: 写真を見ながらカードを選ぶ児童)



(画像⑤: 児童が書いた日記)

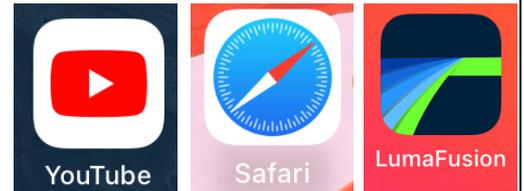
②気分転換の方法を複数身につける

使用アプリ: YouTube、Safari、LumaFusion

・気持ちが高ぶった時に、一定時間好きな遊びをする、場所を変えて休養をとるなど、穏やかに過ごせる手段を複数身につける。

<児童の様子>

- ・クールダウンのために、iPad を受け取ると、昨年度までの使用頻度も高かった YouTube を見るが多かった。少しずつ、YouTube だけでなく、Safari で好きなアニメのホームページを見たり、LumaFusion を使って動画を作ったりするなど、複数の方法を試すようになった。
- ・様々な切り替える方法を試す中で、動画作成の活動が気に入り、動画作成を休み時間にすることで気持ちを切り替えることができるようになった。



(画像⑥: 動画作成の様子)

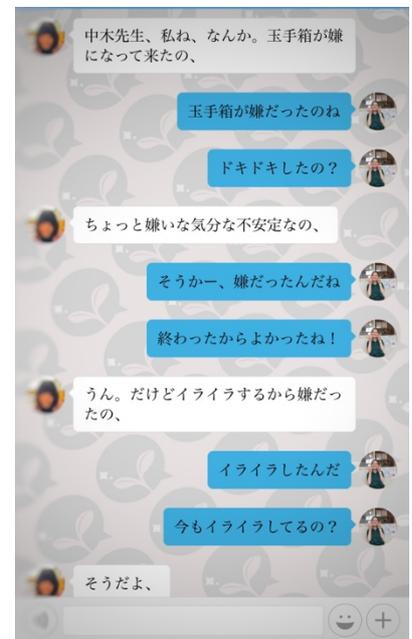
3. コミュニケーション手段の模索

使用アプリ: DropStep +ByTalk

- ・気になることについて、チャットを送ったりメモに書いたりなど、即時に相手に答えてもらえなくても、納得できる方法を探す。
- ・6月から担任とのやりとりを始めた。保護者懇談で担任とのやりとりを母親に見てもらい、協力をいただけることになったので、9月から母親ともやりとりを始めた。

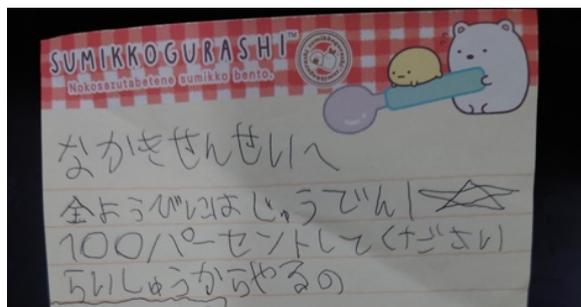
<児童の様子>

- ・チャットでのコミュニケーションも児童は初めてだったが、すぐに慣れることができ、児童からチャットを送ってくるようになった。
- ・チャットの内容は、行事前の不安の解消、要求、気持ちの整理など様々だった。
- ・教員が同じ教室内にいても、会話よりチャットでのやりとりを望むこともよくあった。



(画像⑦: DropStep +ByTalk でのやりとりの様子)

・お手紙メモでのやりとりも好み、チャットとお手紙メモをその時の気分によって使い分けている。校外学習の日程についてや図書室の蔵書についてなど、自分の知りたいことを学級外の教員にもお手紙を渡すこともあった。



(画像⑧: 児童が担任宛に書いたお手紙メモ)

4. 月経期間中を乗り切る

使用アプリ:ソフィガール 生理管理アプリで生理の周期を予測

・自分で月経周期を記録したり、身体の調子の予測を調べたりする

<児童の様子>

- ・月経が始まると、すぐに終了予定日を調べていた。終了予定日の目安がわかり、また、それをいつでも確認できることは、安心できる要因の一つのようである。
- ・アプリの操作にまだ慣れていないので、教員と一緒に操作することが多かった。これからも継続して使い、自分で管理できる部分が増えるとよい。



○対象児の事後の変化

・児童の気持ちの不安定さの要因について

「周囲の音」「月経期間中」の要因が多いことは、児童の母親とも共通認識をしているが、児童に理由を聞いても「(昨年度は楽しんでいた活動について)〇〇は好きじゃないの!」と答えるなど、担任の予想とは異なることも多く、不安定になる要因を明確にするのは難しい。自分自身のことを客観視することには、まだ課題のある児童にとって、自分が不安定になる理由を自覚するのは難しいのではないかと考えられる。

また、事前にスケジュールで児童にとっての不安や嫌悪となる事項を確認しておいても、不安定になることを回避するのは難しかった。

・気持ちの切り替えのタイミングについて

新年度が始まってからは、一度気持ちが不安定になったり落ち込んだりすると、下校時まで引きずることが多かったが、少しずつ切り替えることができるようになってきており、現在では、休み時間の中に気持ちを切り替えることができるようになった。切り替えがスムーズになった要因について、断定することは難しいが、「新しい学級に慣れてきて、激しく動く出来事が減少したこと」「動画作成という大好きな余暇活動ができたこと」「少しでも気になることについては、担任や母親に直接、または、チャットで確認するようになったこと」が挙げられる。特に、自由時間に取り組んでいる動画作成の活動は大変気に入っており、それを目標に、あまり気が乗らない当番の仕事にも取り組んだりすることができるようになった。

・チャットや手紙でのコミュニケーションについて

チャットを使ったやりとりは、未経験の児童であったが、上手に使うことができた。児童から、「校外学習が楽しみ」という話題や担任が出張中に「勉強頑張ったよ」の報告を受けた。すぐに返事が来ないと直接催促をするなど、タイムラグがあるやりとりには慣れない様子も見られるが、いつでも自分の気持ちを吐き出してい場所として自ら使うことも増えてきている。

手紙でのやりとりでは、「下校後に iPad を充電してほしい」などの要求を教員にした。他の学級の教員へのお願いを手紙にして、手渡すこともあった。

指導開始時は、文字に書いて渡すことで、何度も要求することが少なくなるのではないかと考えたが、チャットをしたり手紙を渡したりした後も口頭で何度も確認していた。チャットや手紙でのやりとりを重ねる中で、気持ちをうまく発散できるようになったからか、「あまりしつこく言わないでよ～」と担任にお願いされたからか、何度も確認することは少しずつ減ってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

・文字でのやりとりを行うことは、児童にとっては、いつもでも気持ちをぶつける相手があることにつながっている。気持ちが少し不安定になっても大きく崩れることにつながりにくく、切り替えもしやすくなっている。

○エビデンス(具体的数値など)

気持ちの不安定さについての記録

	6月(担任とのチャット開始)	9月(母親とのチャット開始)	1月
不安定になる要因	・月経期間 ・体育 ・異なる集団での学習	・月経期間 ・体育 ・異なる集団での学習	・月経期間
切り替えのためにしたこと	・担任とチャットでやりとり ・YouTube ・トイレや更衣室で1人になる	・担任、母親とチャットでやりとり ・YouTube	・担任、母親とチャットでやりとり ・休み時間の過ごし方の工夫
切り替えのタイミング	・下校まで切り替えは難しい	・給食 ・次の活動に参加しながら徐々に	・次の活動に入る前

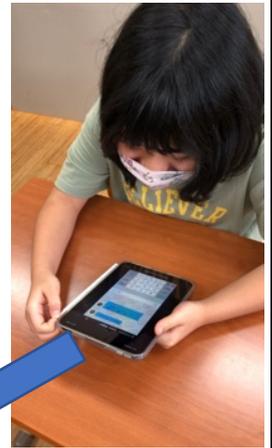
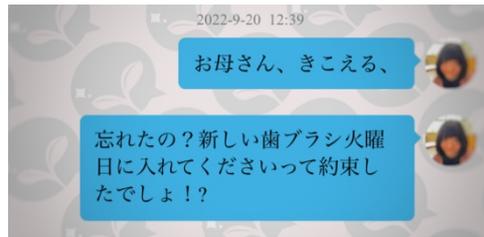
母とのチャットの内容の広がり(下線部は児童が自発的に送った内容)

9月	10月	11月	12月	1月
・忘れ物	・図工の作品披露	・クラブ活動の作品披露 ・ <u>怪我の報告</u> ・作文披露	・ <u>体育で体操服を着用しなかったこと</u> ・ <u>月経</u>	・ <u>忘れ物</u> ・ <u>天候について</u> ・ <u>雪について</u> ・自作したスキーセットについて ・ <u>月経</u>

○その他エピソード(画像などを含めて)

・チャットの使い方について

チャットを送る際に、文を整えたり、相手の気持ちになって考えることは、まだ難しい。自分が送った文章を読み、その様子を動画に撮って振り返ることで、メッセージを受けた相手の気持ちを考える機会を作った。



(画像⑨:怒りながら打った文面を読み返している様子)

・動画作成について

「大きくなったらアニメ会社をやりたい」という児童の思いから始まった、動画編集活動。教員が使っている iPad を見て、「これ使ってみよう」と LumaFusion で編集することになった。担任に「アニメは音源と画像が必要」と言われ、大好きなドラえもんを使用されている曲に乗せて、大好きなドラえものひみつ道具を流すことになった。好きなひみつ道具を1曲分の尺に全て入れたいという思いから、0.02秒ごとに違う画像が出てくるびっくり動画が完成した。(画像⑩) 架空の映画予告の動画では、実際の映画予告を見て、構成を学び、ナレーションにも挑戦した。(画像⑪) 毎日意欲的に制作し、好きなものをぎっしり詰め込んだ作品が出来上がった。好きなものがコアなこともあり、完成した動画を周囲の友達に理解してもらうことは難しいが、児童にとって関わりの深い教員や母親にも完成した動画をみてもらい、誇らしげだった。(画像⑫) 小学部での集会など、友達の前でも披露することも検討している。今後、ICT を活用した様々な作品づくりに挑戦してもよいのではないだろうか。



(画像⑩:編集画面)



(画像⑪:編集画面)



(画像⑫:学級外の教員へ動画披露)

【今後の課題】

○自分の思いをいつでも吐き出せる場所の確保。

・魔法のプロジェクトで借りた端末から、GIGA 端末への移行が課題である。今年度使用したチャットアプリは、学校の一人一台端末で使用できないため、代替手段を探す必要がある。学校、デイ、家庭など、複数の場所で使えるような手段があるとよいのではないかと。